

(2) 産業振興施設（産業研修センター）

指定管理者の名称 公益財団法人 台東区産業振興事業団  
所管部課 文化産業観光部 産業振興課

評価委員会による評価

1 評価の観点

「評価の観点」(1)～(4)における委員会の評価については、委員会の合議により決定した。

「委員のコメント」及び「評価委員会から区への意見」については、評価の過程における多様な意見を報告書に反映するため、各委員から出された様々な意見を記載している。

(1) 事業の運営

委員会の評価	A	（【参考】区の評価：A）
--------	---	--------------

委員のコメント

良い点

区内中小企業の振興や勤労者等の福祉向上など、多様な目的のために設置されている施設であり、異なる対象・事業内容・運用形態である中で適切な運用がなされている。

交通不便な立地であるにも関わらず、施設の利用人数が増加しており、運営努力が認められる。

改善すべき点

各種研修事業に関しては、ほぼ定員は充足されているが、ファッション・マーケティング講座は、参加者数は増えているものの、大幅な定員割れを起こしている。参加者を増やす工夫や集客の方法を考えてもらいたい。また、施設稼働率を一層上げる努力が望まれる。

その他

地域の方々が講座等で利用することが多く、日曜日を開館している方が施設稼働率は良いのかもしれないが、業界団体が研修等で施設を使用する際は、平日に開館している方が利用しやすいと考える。

(2) 施設の維持管理

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点
比較的古い建物であるが、保守管理や日常の清掃・点検は適切に行われている。また、24時間運営しているものづくり工房についても、大変管理が難しいにも関わらず、これまで特段事故もなく、適切に管理されている。

改善すべき点
皮革産業資料館やものづくり工房など、警備上の問題は残るが、もう少し一般客が入りやすくなるよう、看板等を工夫してはどうか。

(3) 利用者の満足度

委員会の評価	A
--------	---

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点
事業ごとに参加者の属性や満足度などのアンケート調査を行っており、概ね良好な評価を得ている。

改善すべき点
アンケート結果によると、企業向けの研修や講座はリーフレットが主たる情報源となっている。企業向け事業の参加者を増やすためには、リーフレットの配布場所などの工夫が必要である。
各種業界団体に対して、利用促進のため、さらにPRを行っていく必要がある。また、業界団体の研修等のニーズをもう少し掘り下げて調査し、把握していく必要がある。

### その他

現在の利用者の満足度は高いが、さらに利用が進むことで、より良い施設運営となることを期待する。

#### (4) 収入支出

委員会の評価

A

(【参考】区の評価：A)

#### 委員のコメント

##### 良い点

収支状況は、ほぼ予算通りの決算となっており、適切に処理されている。

独自予算で損害保険に加入するなど、リスクに適切に対応している。

##### 改善すべき点

各種研修事業の受講者の増加は認められるが、施設の稼働率、収入増を図るためにも一層の努力が必要である。

## 2 総合評価

総合評価は、7ページに示した基準に従い、「評価の観点」の結果に応じて評価を付した。

委員会の評価	<b>妥当</b>	(【参考】区の評価：妥当)
--------	-----------	---------------

### 委員のコメント

総合評価としては「妥当」と考える。今後は、「施設の設置目的」や施設の所管課が産業振興課ということからも、業界団体の利用をさらに拡充していくことが重要と考える。

施設管理は概ね良好であり、利用者の増加にも努力が見られる。しかし、施設の設置目的からファッション・マーケティング講座のような研修事業が重要と考えるが、定員に対する受講者が増加しているとはいえ、定員充足率は低い。募集方法や新たな講座の開設等の検討が必要である。

ものづくり工房の入居者が次のステップに行くための、例えば手作りから少量であっても量産化する際の多くの課題について、事業団として何が支援できるのかを検討し、実践してほしい。

### 3 評価委員会から区への意見

#### 委員のコメント

施設の管理面で区の意向が大きくなるのは当然であるが、事業の運営・内容においては、新しい試みや利用者の要望に対して、事業団がより自主的に実施できるような体制が必要である。

事業団が本施設を使って独自の事業ができるような、裁量的な予算の枠組みも必要である。

ものづくり工房入居者・卒業者に対する、販路拡大やメーカーとのマッチングなど、側面からの支援を考えてもらいたい。また、彼らの発展が業界のプラスになるような施策に結びつけてもらいたい。

産業界や区民のニーズに合わせるようにして、施設が複合機能をもつようになってきており、施設の運営面の難しさをもたらしているように思う。施設のあり方を検討する必要があると考える。

「産業研修センター」という名称と若干異なる事業が増えてきているため、名称変更等も考えてはどうか。

台東区産業振興事業団への事業移管が予定されており、また旧小島小学校全体の活用も計画されていることから、これらの施設の一体的な運用が可能になるような方策を検討してほしい。

## 区による評価

平成26年度 指定管理者施設管理評価シート		部	文化産業観光部	課	産業振興課	
施設名称	〔9〕 東京都台東区立産業研修センター					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区産業振興事業団	指定期間	H23.4.1 ~ H28.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	台東区産業の経営基盤を整備し、区内中小企業の育成を図るとともに、中小企業勤労者の福祉の向上を目的に、勤労者サービスセンター及び産業研修センターの運営を行う。					
(2)類似施設の管理実績	なし					
(3)経営状況	基本財産の額 5億円〔収入〕127,812,356円〔支出〕125,812,898円 〔区返還〕7,041,450円〔当期末残高〕44,396,816円					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区橋場1-36-2					
(2)設置目的	台東区の中小企業の振興及び勤労者等の福祉向上並びにものづくりに携わる事業者の育成を図り、もって区内産業の活性化に寄与する。					
(3)利用者	区内在勤、在住の者で構成する団体等 浅草ものづくり工房入居者ほか					
(4)開館日・時間	・開館日：毎週月曜日 国民の祝日に関する法律に定める休日（月曜日の場合はその翌日）1月2日、3日 12月29日から31日までを除く毎日 ・開館時間：9時から22時					
(5)規模	旧館：S56.10.1 開設・延床面積 932.78㎡ RC造3階建 事業者支援施設（貸事務所9室）機械研修室 新館：S58.11.1 開設・延床面積 1,179.04㎡RC造4階建（4階橋場老人福祉館併設）会議室 研修室 皮革産業資料館兼図書コーナー					
(6)人員体制	産業研修センター所長 1名、事務職員 4名					
3. 事業（サービス提供）の概要						
(1)委託事業	【サービス提供】登録団体への各研修室、会議室等の貸出 【事業者支援】浅草ものづくり工房入居者への支援					
(2)自主事業	革工芸教室・CAD講座・語学教室・パソコン教室・太極拳教室等実施					
4. 予算決算の推移						
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算	委託料	35,963,000	48,075,000	30,272,000	31,171,476	32,013,000
	利用料金収入	3,784,000	6,423,000	6,440,000	6,651,000	6,877,000
	その他収入	0	4,359,000	1,955,000	2,026,000	1,652,000
	管理経費	39,747,000	58,857,000	38,677,000	39,848,476	40,542,000
決算	委託料	33,488,723	44,112,301	27,761,223	29,401,022	28,628,497
	利用料金収入	2,888,850	6,089,500	6,455,375	6,404,325	6,837,875
	その他収入	0	1,557,927	1,675,671	1,577,819	1,654,225
	管理経費	36,377,573	51,759,728	35,892,269	37,383,166	37,120,597
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等（活動指標）						
指標名称	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	
利用人数	人	12,277	11,420	13,480	15,604	
ものづくり工房	室	9	9	9	9	
6. 成果指標						
指標名称	単位	目標値 （27年度）	23年度	24年度	25年度	
研修センター稼働率	%	27.0	22.0	23.9	24.6	
ものづくり工房稼働率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	

7. 平成25年度評価結果に対する現在までの取組み				
<p>ものづくり工房では、2期生9社の内1社が25年12月退室し、台東区鳥越で活動を開始した。25年11月ものづくり工房の施設公開を初めて開催(入場者1,177名)。また地場産業団体「E-ラウド」がものづくり地域イベントを同時開催し、工房の地域認知度と地域企業・区民との相互交流がより深まった。「CADシステム相談」は、「なんでも相談」と名称変更を行い、より受講者が増加した。ファッション講座の開催では、関連の専門学校に案内し、受講者が増加した。工作機械研修室については、修学旅行生の体験教室用として受け入れ可能とした。</p>				
8. 評価項目				
3: 協定等の水準を上回っている。		0: 協定等の水準を下回っている。		
2: 協定等の水準どおりである。		-: 評価対象外項目。		
1: おおむね協定等の水準だが課題がある。				
評価の観点	評価項目			
(1)事業の運営 平均 [2.0]	(a)施設の目的達成	[2]	(f)開館時間等の遵守	[2]
	(b)サービス水準	[2]	(g)自主事業の成果	[2]
	(c)職員配置	[2]	(h)個人情報保護	[2]
	(d)職員研修	[2]	(i)緊急時対応	[2]
	(e)案内・接遇	[2]	(j)警備・防犯体制	[2]
(2)施設の維持管理 平均 [2.0]	(a)建物保守・設備機器点検	[2]	(e)危険箇所等の確認	[2]
	(b)備品の管理	[2]	(f)管理記録の作成・保存	[2]
	(c)清掃・衛生管理	[2]	(g)業務委託の事前承認	[2]
	(d)施設の修繕	[2]	(h)省エネ・省資源・環境配慮	[2]
(3)利用者の満足度 平均 [2.0]	(a)利用者・第三者機関の評価	[2]	(d)利用しやすい環境整備	[2]
	(b)苦情・要望への対応と報告	[2]	(e)関係団体・地域との関わり	[2]
	(c)利用者数の目標達成	[2]		
(4)収入支出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行	[2]	(c)収支計画の達成	[2]
	(b)管理経費の効率化	[2]	(d)利用料等の徴収・管理	[2]
9. 評価				
S (水準以上) : 協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。				
A (適正) : 協定等の水準を満たす管理が行われている。				
B (一部課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。				
C (課題あり) : 協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。				
D (水準未滿) : 協定等の水準を満たしていない。				
評価の観点	評価	説明		
(1)事業の運営	A	講座や教室については、研修センター運営委員会や利用者の意見を伺い、周知方法の工夫により参加者の増加を図った。ものづくり工房2期生には、モノステージの開催、展示会への出展・販路拡大等の支援を行っている。		
(2)施設の維持管理	A	管理基準を基に点検等を実施しており、業務日誌や施設利用者報告書等によって区に報告され、必要な修繕を行い適切に管理されている。清掃業務及び夜間施設管理は、シルバー人材センターに委託し、効率的かつ適切に実施している。		
(3)利用者の満足度	A	会議室の稼働率は目標値に若干満たなかったが、アンケート調査や聞き取りにより把握した意見・要望等を、講座開催や施設運営に反映し、稼働率の増加に努めた。また、工房入居者に対しても、定期的に意見を聴取し対応している。		
(4)収入支出	A	会議・打合せのために会議室を利用する企業やグループ活動の一般利用が増え、利用料収入が増加した。また、ファッションマーケティング講座では周知方法を工夫し、前年度を上回る受講者数を確保したことにより、行事参加収入が増加した。		
10. 総合評価				
良好 妥当 要努力 要改善 不適				
妥当		協定等の基準に基づき事務処理を含め適切に管理されている。また、「施設公開」により、工房入居者の認知度が高まり、より一層関係団体や地域との協力体制が図られ、地域産業活性化に努めている。		
11. 平成26年度評価結果に対する今後の対応				
ものづくり工房2期生の入居期間が半年余りとなるため、入居者のビジネス展開、区内創業に向けて、さらに指導、支援を行う。また、会議室の稼働率を高めるため、広報・ホームページでの周知を充実していくとともに、修学旅行生向けに体験教室を行っている区内事業所へ利用案内を郵送する。講座等については、さらなるサービス向上のため、アンケート結果等による利用者ニーズに合わせた対応が求められる。				